

ひなぼと



～NPO法人ピピオ子どもセンター

会報～
vol. 25

2018年10月16日

ボランティアスタッフ養成講座を開催しました

今年で9回目を数えるボランティアスタッフ養成講座が終了致しました。様々なご経験を有する22名の方が講座に参加してくださり、そのほとんどがボランティアスタッフになることを希望されました。

講座を受け終えたある方は、「困難に直面する子どもの現実を知り、自分が何をすることが出来るのか不安に思った。」とおっしゃいました。その方は、ご自身が災害に遭い、復旧作業をしていらっしゃる方でした。それでも「誰かのために」「何かをしたい」、その一心でボランティアスタ

ッフになることを決めたそうです。そのお気持ちがありがたくてなりません。その気持ちはボランティアを希望されるすべての方の思いなのでしょう。

人ひとりではどうにもできないことがあるということを痛感させられる今日、「誰かのために」「何かをしたい」は「わたし」を救うことにつながるものになると信じています。

みなさまのご協力、お力添えをよろしくお願い致します。

理事 掛 幸太

■第9回ボランティアスタッフ養成講座の概要

(ボランティアスタッフ養成講座は公益財団法人マツダ財団とピピオ子どもセンターとの共同事業である「スタートラインプロジェクト」として実施しています。)

| 講 | 開催日 | テーマ | 講師 |
|-----|-------|--------------------------|--|
| 第1講 | 6月6日 | ガイダンス及び子ども担当体験報告 | 鶴野一郎理事長、子ども担当弁護士 |
| 第2講 | 6月13日 | 居場所のない子どもたちの実情 | 広島市児童相談所支援課課長補佐 小笠原豊子氏 |
| 第3講 | 6月20日 | 居場所のない子どもたちとの関わり方 | 食べて語ろう会理事長 中本忠子副理事長 那須寛理事 |
| 第4講 | 6月27日 | 虐待のある環境で育つ子どもの実情 | 広島県教育委員会スクールソーシャルワーカー スーパーバイザー 酒井珠江氏 |
| 第5講 | 7月3日 | 「ピピオの家」「はばたけ荘」って、どんなところ？ | 「ピピオの家」及び「はばたけ荘」のスタッフ、ボランティアスタッフ |
| 第6講 | 7月11日 | シェルターに関わる法制度（民法、児童福祉法など） | 平谷優子理事 |
| 第7講 | 7月18日 | 子どもとの関係づくりについて | 広島国際大学 岡本晴美教授 |
| 第8講 | 7月25日 | 発達に障害がある子への接し方 | 磯辺省三理事 |

第8回通常総会のご報告

平成30年6月9日午後2時から、広島弁護士会館で平成30年度（第8回）通常総会が開催され、正会員100名のうち委任状出席を含め56名の方が参加されました。

総会では、平成29年度事業報告及び収支決算、平成30年度の事業計画及び活動予算について、いずれも全員一致で議案のとおり承認されました。また、当法人の新たな理事として弁護士の蓮見和章氏を選任することが全員一致で承認されました。

当法人も設立して8年目を迎え、様々な課題をかかえつつも会員や役員、スタッフ、ボランティ

アスタッフ、子ども担当弁護士、事務局員など多くの皆様に支えられ、活動のベースはできてきたと考えております。総会では、議案の決議や審議後の意見交換で、さらなる安定かつ充実した活動を行っていくため会員増加に向けての取り組みや当法人の活動の広報の在り方などについて意見が出されました。今後ともより充実した活動を進めて行けるよう多くの皆様のお力をお借りして歩みを進めていきたいと考えております。今後とも暖かいご支援をよろしくお願い申し上げます。

理事長 鵜野 一郎

■平成29年度 「ピピオの家」「はばたけ荘」の入居者の概要

| | ピピオの家 | | はばたけ荘 | | | |
|---------------------|------------------|-------|------------|-------|------------------|--|
| 入居者数 | 7名（女子） | | 4名（男子） | | | |
| うち29年度中の新規入居 | 7名 | | 2名 | | | |
| 入居時の年齢 | 15歳 | 2名 | 15歳 | 2名 | | |
| | 17歳 | 2名 | | | | |
| | 18歳 | 2名 | | | | |
| | 19歳 | 1名 | | | | |
| 入居期間 | 約0.5か月 | 2名(*) | 1週間以内 | 2名(*) | | |
| | (*)1名は30年度引き続き入居 | | | | (*)1名は30年度引き続き入居 | |
| | 約1.5か月 | 2名 | | | | |
| | 約4か月 | 1名 | | | | |
| | 約4.5か月 | 1名 | | | | |
| 約5.5か月 | 1名 | | | | | |
| 平成29年度中の退居者の退居後の行き先 | 親や親族のもとへ | 2名 | 親や親族のもとへ | 1名 | | |
| | 県外の自立援助ホーム | 1名 | アパートで一人暮らし | 2名 | | |
| | アパートで一人暮らし | 2名 | | | | |
| | 一時保護所 | 1名 | | | | |

■NPO法人ピピオ子どもセンター 役員名簿

第8回通常総会における新たな役員を選任等により、役員体制が次のとおりとなりました。

| | |
|------|--------------------------------------|
| 理事長 | 鵜野 一郎（弁護士） |
| 副理事長 | 中本 忠子（NPO法人食べて語ろう会理事長） |
| 理事 | 磯辺 省三（広島文化学園大学特任准教授） |
| 理事 | 上野 和子（NPO法人ひろしまチャイルドライン子どもステーション理事長） |
| 理事 | 大石 結加（広島県社会福祉士会 子ども家庭支援委員） |
| 理事 | 掛 幸太（司法書士） |
| 理事 | 桑原 正彦（小児科医） |
| 理事 | 那須 寛（弁護士） |
| 理事 | 蓮見 和章（弁護士） |
| 理事 | 平谷 優子（弁護士） |
| 監事 | 奥 兆生（公認会計士・税理士） |



この度理事に就任させていただきました、蓮見和章と申します。

私は設立時よりピピオ子どもセンターの活動に関わらせていただき、これまで鶴野理事長はじめ理事の方々が本当にご尽力されているお姿を見てきました。ですので、この度の理事就任は大変身の引き締まる思いでいます

設立8年目となるピピオ子どもセンターですが、シンポジウム等をきっかけに多くの方に賛同いただいたことで奇跡的に設立の運びとなったことを私は昨日のここのように覚えています。また、現在まで何人もの行き場のない子どもたちがピピオを利用することができているのは、理事や事務局、実際に子どもに日々接するスタッフ、担当

弁護士の頑張りに加え、会員として多くの方々から継続してご支援をいただいているからこそだと思っています。日々の活動ではなかなか皆様全員と顔を合わせることはないかもしれませんが、ピピオが多くの方々に支えられていることに勇気もらいながら、新たな立場で自分にできることをしていきたいです。

一人でも多くの子どもたちが笑顔で社会へはばたいていけるよう、引き続き皆様と力を合わせながら頑張っていきたいと思っております。どうぞよろしく願いいたします。

ピピオ子どもセンター理事 蓮見 和章

スタッフ通信

はばたけ荘のスタッフSです。

今年、3月末にはばたけ荘が再開し、早いもので6ヵ月が経ちました。

はばたけ荘の再開と同時にスタッフとして勤め、「あーすれば良かった」「こう言えば良かった」と、後悔と同時に多くの勉強をさせて頂いております。

はばたけ荘で子ども達と生活を共にしていると、自分自身が子どもの頃に母親に口うるさく言われたセリフを思い出します。

「ゲームのやりすぎよ」、「部屋の掃除しなさい」、「弁当箱だしときなさい」…etc

当時は、「うるさいなあ」くらいにしか思っていませんでしたが、そんなセリフを今度は私が子ども達に口うるさく言い指導する毎日。

しかし、そんな子ども達への指導が、“自分が出来なかった事”を押し付ける、自分の理想や価値観の押し付けになってしまっているのではないかと考えています。100人子どもがいれば、100通りのその子の為の接し方や対応があり、それを見つ

けてあげることがスタッフとしての役目なのだと、日々努めています。

“はばたけ荘”という共同生活を強いられる環境で、文句の1つ2つはあれども、大学進学に向けてアルバイトをしながら学校へ通ったり、朝早くから自転車で職場へ向かったり、必死に就労先を探して面接へ行ったり… 歩幅はそれぞれですが、子ども達ひとりひとりが自立へ向けて踏み出している姿には感心します。それもひとえに、子ども担当弁護士の方をはじめ、はばたけ荘に関わってくださっている多くの大人の子ども達へのサポートがあってこそだと痛感しております。

子ども達とスタッフの皆で食卓を囲んだり、一緒にテレビを見たり、アニメや漫画の話を交わしたり、何気ない日々の中で見せる子ども達の笑顔は、私にとって何物にも替えられない万能薬です。

“日常”というものを大切にしながら、私も子ども達と一緒に成長し、未来へとはばたいていけたらと思っています。

“子どもの笑顔と安心、安全な地域づくり！”ネットワーク シンポジウムのご報告

9月9日に、“こどもの笑顔と安心、安全な地域づくり！”ネットワークの総会記念シンポジウムに参加しました。同ネットワークは、ピピオも会員になっている、子ども支援に関連する団体が緩やかに連携するために設立された団体です。

今回のテーマは、ネットにつながるこども達～こども達は今何を求めているのか～でした。

安川雅史さんの基調講演では、実際にネットにまつわる事件で子どもたちが被害にあっている事例の紹介と、フィルタリングなどの対策が紹介されました。

シンポジウムでは、広島エフエムの大窪シゲ

キさん、広島大学の北仲准教授から、発言がありました。私も弁護士として登壇しました。

「大人が頑張って子どもを守らなければ！」と強く発信する安川さん、他方で、「大人だって泣いていい、弱くていい」と訴えた大窪さん、そして、インターネットの重要性をしっかりと説明してくれた北仲さんのおかげで、とてもバランスの取れた、明るいシンポジウムでした！

弁護士 寺西 環江

※“こどもの笑顔と安心、安全な地域づくり！”ネットワークは、広島県内の子ども支援活動団体等による緩やかなネットワークの構築を図っています。ピピオ子どもセンターも参加しています。

ピピオ掲示板

生活用品のご寄付について（お願い）

ピピオの家・はばたけ荘から一人暮らしを始める子どもたちへの生活用品の提供についてご協力をいただき、ありがとうございます。

この間、多くの家電製品や家具などを頂戴し、ストックも充実してきました。このため、当面は、次の家電・家具についてご寄付をお願いすることとします。

- ・冷蔵庫 } いずれも製造年
- ・洗濯機 } から3年以内
- ・3段ボックス（棚タイプ）

不足気味になった際には、改めて本掲示板などでお願いすることとしますので、よろしく願いいたします。

寄付等のご協力ありがとうございました

梅本様、小武家様、宇都宮様、こね森内科医院様、山口様、寺西様、片桐様、瀬戸様、国際ソロプチミスト広島-もみじ様、井上様、佐藤様、小倉様、葉真寺様、松尾様、田村様など多くの方々から寄付（金銭、生活用品等）を頂いております。日々の子どもの生活や、より充実した自立支援のために活用させていただきます。

この場で御礼申し上げます。

○2018年9月末日時点の会員数○

正会員 個人:93名 団体:7団体
賛助会員 個人:72名 団体:2団体

発行者 特定非営利活動法人ピピオ子どもセンター 事務局
〒730-0014 広島市中区上幟町2番36号 S・ウィングビル505号
TEL: 082-221-9563 FAX: 082-555-3659
ホームページ: <http://www.pipio.or.jp>